

道徳科 学習指導案

令和6年2月16日（金）

第2学年2組（於2年2組教室）

指導者 春名良祐

- 1 主題名 気高く生きようとする心 内容項目 D-（22）
- 2 教材名 「タッチアウト」（中学生の道徳「自分を考える2」）
- 3 主題設定の理由

○ 本教材は県大会の決勝戦、自分が落球をごまかしたことで優勝し、東北大会に出場することになったことを「僕」が、良心の呵責に悩み続ける姿を通してねらいにせまるものである。本来ならサヨナラ負けの試合が自分の行動によって優勝してしまった。そのことをどうしても正直に言えない自分とそれを責める自分の激しく揺れ動く「僕」の心の葛藤に人間が併せもつ心の弱さと誠実さがよく表れている。誠実がゆえに悩む「僕」に共感しながら、自分の生き方を見つめ直すことができる教材である。

○ 本学級は男女分け隔てなく生徒同士の仲が良く、和気藹々とした雰囲気である。また、お互いに声をかけ合いながら学校生活をよりよくしていきたいという気持ちを持っている生徒も多い。一方で忘れ物をしたことを隠すために他学級の生徒から準備物を借りてくるなど、自分に不都合なことがあると安易にごまかそうとする言動がしばしばみられる。また、それに対しての罪悪感もあまりないように感じる。このような状況を踏まえ、本教材を通して自らの行動を振り返り、自分の行動に責任を持ち、よりよく生きようとする気持ちを育てたい。

○ 指導にあたっては、自分が落球したことをごまかしてしまった「僕」の心の弱さに共感させる。そこから誠実さによって悩み、苦しむ「僕」の気持ちを捉えさせていきたい。また、立場を変え「チームメイト」の立場になって考えてみることで、より「僕」がとる行動の責任の重さを感じさせることで、「僕」の激しく揺れ動く心の葛藤に迫っていききたい。そして人間が持つ心の弱さと向き合いながら、それを克服し誠実に生きようすることの大切さに気づかせたい。

4ねらい

自分の過失を隠したことについて良心の呵責を感じ続ける「僕」の思いについて考えることを通して、人間のもつ気高く生きようとする心に気づき、自らの弱さや醜さを克服してよりよく生きようとする道徳的心情を育てる。

5人権教育の視点 3-(1)-イ

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだす。

6準備物

教科書 ワークシート 短冊 パソコン

7 展開

学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点（支援◇評価□）
1 主題を知る。 2 教材を読み、登場人物の心情を自分事として考える。 3 自分自身を振り返る。	○これまで事実を隠したり、ごまかしてしまったことや嘘をついてしまったことはあるか。 ・悪い点数のテストを隠して親にみせなかった。 ・自分が物を壊してしまったことをごまかしてしまった。 ○あなたが「僕」なら落球のことを言いますか。言いませんか。 [言う] ・落球のことを隠して勝ってもうれしくないから。 ・落球のことを言わないことで後悔してしまうと思うから。 [言わない] ・勝ちたい。 ・チームのために。 ・ルール上問題ない。 ・みんなに悪いから。 ○あなたがもしチームメイトの立場なら言っただけでいいと思いますか。言わないでほしいと思いますか。 [言っただけでいい] ・そんな勝利はうれしくないから。 ・不正はしたくないから。 ・「僕」一人で抱えこませたくない。 [言っただけでいい] ・目標にとどかなくなる。 ・誰も傷つけてないから。 ◎「僕」がこんなに悩まなければならないのはなぜか。 ・チームの希望をなくしたくない。 ・相手や仲間に申し訳ない。 ・自分の決断が正しかったのか。 ・「正直でいたい」と思う気持ち。 ○この時間に感じたこと、考えたことを書こう。	◇発言が出にくければ事前にとったアンケートの中からいくつかエピソードを紹介する。 ◇「僕」の立場ならどうするかカードで自分の思いを表示させる。 ◇それぞれの気持ちをもう一度聞き直すことで心の奥にある気持ちを引き出させる。 ◇立場を変えさせ、自分がチームメイトの立場ならどうしてほしいかをカードで意思表示する。 ◇「僕」の時にいたカードと「チームメイト」として置いたカードを比較することで立場が変われば考え方や気持ちが変わることにも注目させる。 ◇東北大会への出場を素直に喜べない「僕」の様子から、良心の呵責を感じる「僕」の心を感じとらせたい。 □人間は誰しも弱い一面を持っているが、それを克服しようとする気持ちが持てたか。

タッチアウトの生徒感想

- 本当にこういう状況になったら言っても言わなくてもどちらにしてもモヤモヤしてしまって友達が言っていたようにどうしようもないと思います。素直に正直に言うことも大切だと思うけど難しいと思いました。
- 私がこの状況になったら言わずに正直に言わずに次の大会に出ると思います。罪悪感はあるけど、しっかり切りかえて西田中の分も頑張ろうと思います。これからも自分が思った正しい判断をしようと思いました。
- 私はこれから何かあったときは正直に言おうと思いました。もやもやしていると何にも集中できなくなるときがあるので言おうと思いました。もしチームメイトの立場になったら責めずに次頑張ろうと言いたいと思いました。

